

地球にやさしい



NST2型ペレトーブ 取扱説明書



このたびはペレトーブをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。
この取扱説明書は、大切に保存していただき、必要なときお読みください。

NIKKO SEKKEI

NST2型 ペレトーブ取扱説明書

(強制給排気式木質バイオマスペレットストーブ)



もくじ

◇ 安全上のご注意	3
◇ 安全に使用するために	4
◇ 各部の名前	6
◇ 各部のはたらき	7
◇ ご使用前の準備	9
給排気筒の設置	9
点火前の準備と確認	9
使用木質ペレットについて	10
燃料の投入	10
◇ 運 転	11
点火のしかた	11
消火のしかた	12
燃焼パワー調整のしかた	13
炎の調整のしかた	14
タイマー運転のしかた	15
時刻の合わせかた	17
◇ 風量切替スイッチ(オフション)の操作	18
◇ 安全装置	19
◇ お手入れ、その他	20
日常の点検とお手入れ	20
オフシーズン前の定期清掃	22
異常の見分けかたと処置のしかた	26
排気筒設置例	29
保証とアフターサービス	30
◇ 仕 様	30

◇ 安全上のご注意

本取扱説明書は、ストーブの動作不良によって、お使いになる人や他の人への危害や物的損傷を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。よくお読みのうえ、正しくお使いください。



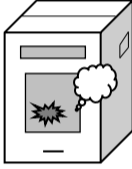


誤った取り扱いを行った場合に生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が死亡、重症を負う可能性、または火災の可能性が考えられる場合を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が考えられる場合を示しています。

絵表示について次のような意味があります。

	一般的な禁止		一般的な注意事項
	分解禁止		高温注意
	接触禁止		感電注意
	水掛禁止		火災注意
	必ず行うこと(実施)		必ず電源を抜くこと

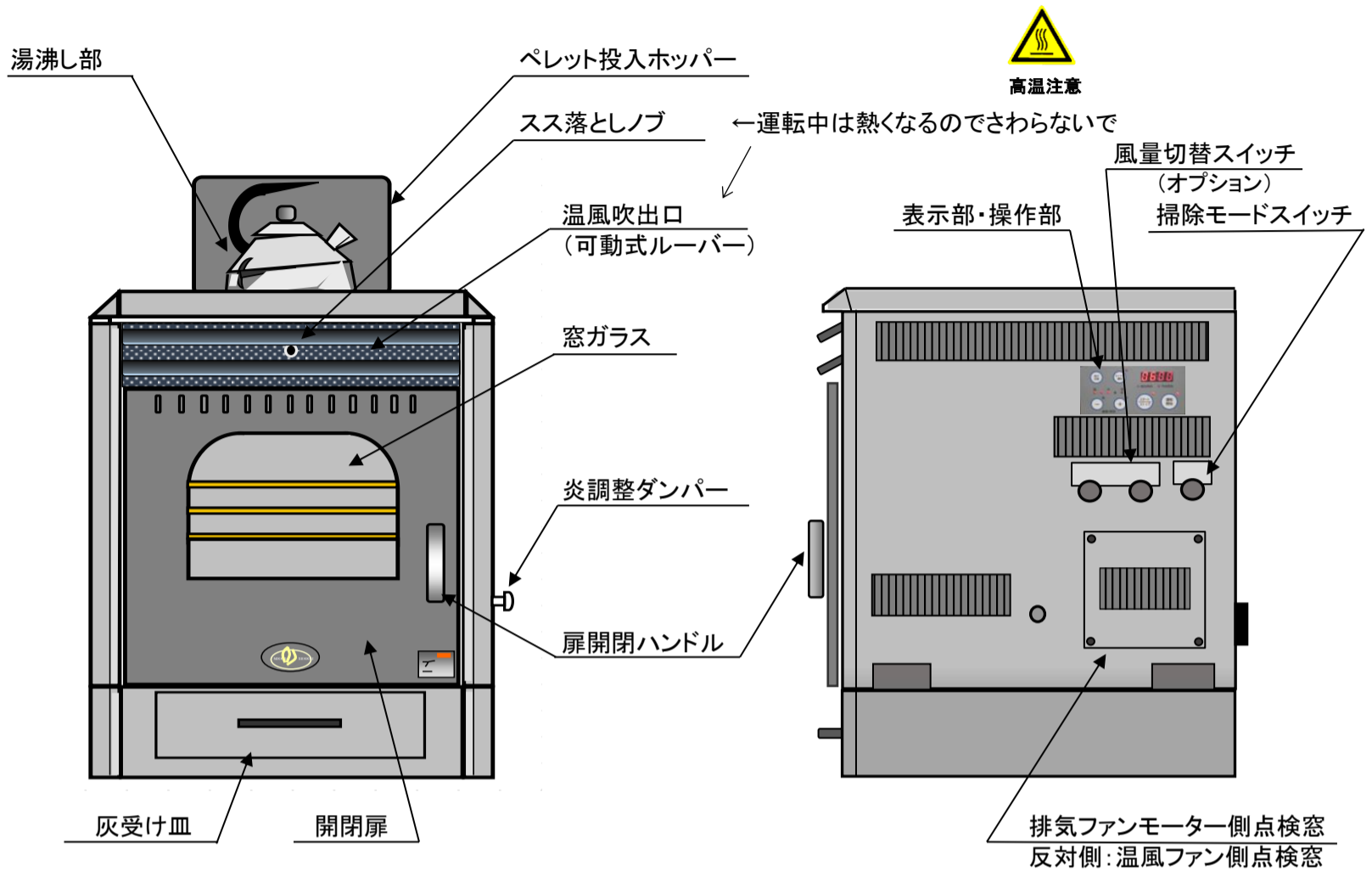
◇ 安全に使用するために

 警告 (WARNING)		
<p>排気筒の設置 (酸欠事故・火災の原因) 本ストーブは、強制給排気式となっています。燃烧した空気を屋外に排出するため排気筒の工事を必ず施工してください。</p>		 実施
<p>使用燃料は木質ペレット以外厳禁 木質ペレット燃料以外の燃料、紙、プラスチック、炭などを絶対に入れないでください。ストーブの故障や火災の原因になります。</p>		 禁止
<p>給排気筒のはずれ危険 給排気筒が正しく接続されているか必ず点検してください。外れていると運転中に排ガスが室内に漏れて、危険です。</p>		 確認
<p>給排気筒の閉塞危険 積雪や異物などで給排気筒の先端がふさがれていないことを確認してください(積雪に注意)。閉塞していると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。</p>		 確認
<p>開閉扉の開放厳禁 燃烧中や原因不明で燃烧が停止した際にも開閉扉を開けないでください。燃っているときに開閉扉を開くと、非常に危険です。排気ファンを運転するか、自然に燃りが解消した後に開閉扉を開けてください。</p>		 禁止
<p>スプレー缶厳禁 殺虫剤などのスプレー缶を温風の当たる場所に放置しないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発する危険があります。</p>		 禁止
<p>電源プラグを抜いての消火厳禁 消火の際、電源プラグを抜いて消火しないでください。温風吹き出し口や天板などストーブ本体が高温になり火傷や故障の原因になります。また、燃烧ガスが逆流して室内に流れ出し予想しない事故を起こす危険があります。</p>		 禁止
<p>衣類の乾燥厳禁 衣類などの乾燥には使用しないでください。衣類が落下して火が着き、火災の原因になります。</p>		 禁止
<p>可燃物近接禁止 カーテンや洗濯物など燃えやすい物の近くでは使用しないでください。ストーブ周辺に可燃物を置かないでください。火災の原因になります。特に温風吹き出し口は高温になりますので注意してください。</p>		 禁止
<p>分解・改造厳禁 分解や改造は絶対に行わないでください。修理技術者以外の方は絶対に分解修理を行わないでください。また故障したまま使用しないでください。異常燃烧や火災の原因となります。</p>		 禁止

使用上のご注意

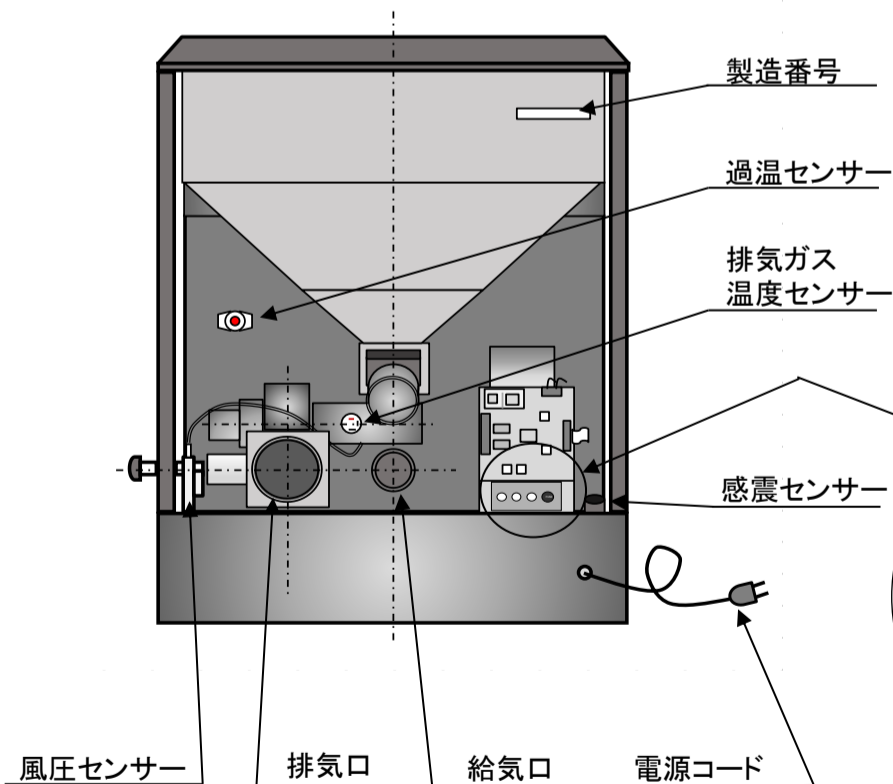
 注 意 (CAUTION)		
<p>高温部に注意 燃焼中や消火直後には、温風吹出し口や天板などの高温部に手や顔を近づけたり、手で触れないでください。火傷のおそれがあります。</p>	 高温注意	 禁止
<p>異物を入れないで ストーブの内部やバーナーポット、ペレット投入ホッパー内には紙、布、プラスチック、金属などの異物を入れないでください。火災や感電、予想しない事故の原因になります。</p>	 火災注意	 禁止
<p>回転部に注意 運転中のペレット投入ホッパー内には手などを入れないでください。回転部にはさまれ、けがのおそれがあります。</p>	 回転物注意	
<p>推奨ペレットの使用 燃料の木質ペレットは、ホワイトペレットまたは全木(混合)ペレットを使用してください。質の悪いペレットを使用するとバーナーポットにクリンカが溜まり、故障の原因になります。</p>		
<p>正しい消火(水をかけないで) 消火の際は、スタート/ストップスイッチ押しで消火してください。スイッチを押すことにより燃料の供給が停止し、自然に消火します。絶対に水をかけないでください、故障の原因になります。</p>		
<p>電源コード/電源プラグを痛めない 電源コードや電源プラグをいためないでください。無理な力を加えたり、重いものを載せたりしないでください。電源プラグを抜くときはコードを持って引き抜かないでください。コードが傷んだままで使用すると火災や感電事故を起こすことがあります。</p>		
<p>電源プラグは確実に 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。また時々電源プラグを抜き、ほこりを除去してください。ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。ぬれた手での抜き差しはしないでください。感電の原因になります。</p>		
<p>運転中は電源を抜かないで 電源プラグを抜くときは、温風ファンと排気ファンが停止していることを確認して抜いてください。</p>		
<p>手入れ時は電源を抜いて 手入れするときは、本体が冷却した後に電源プラグを抜いて行ってください。感電や火傷の原因になります。</p>		
<p>長期間使用しないときは電源を抜いて 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。火災や予想しない事故のおそれがあります。</p>		

◆ 各部の名前

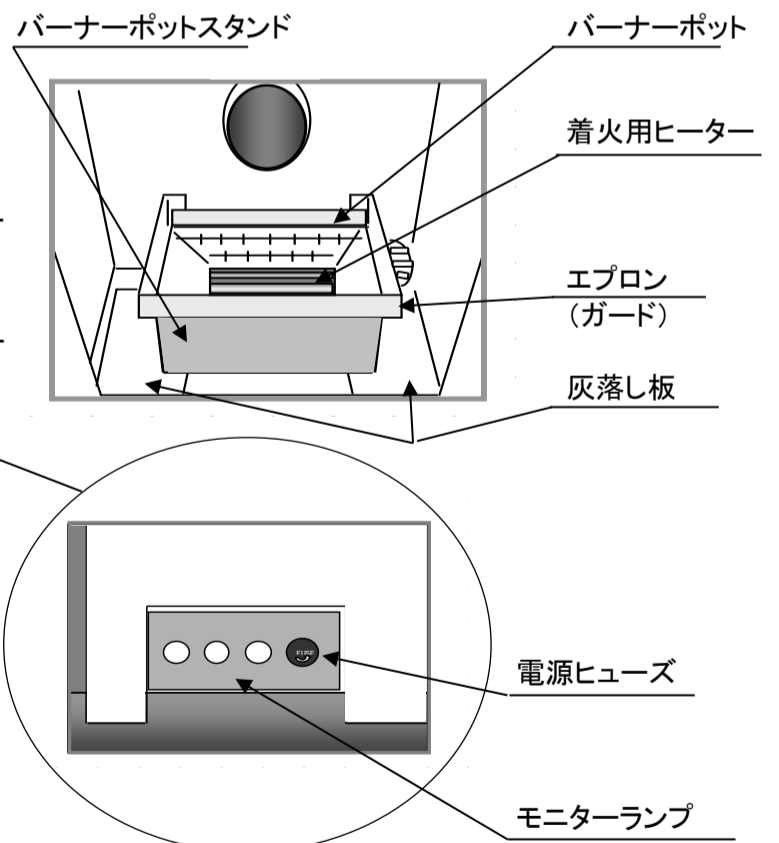


背面

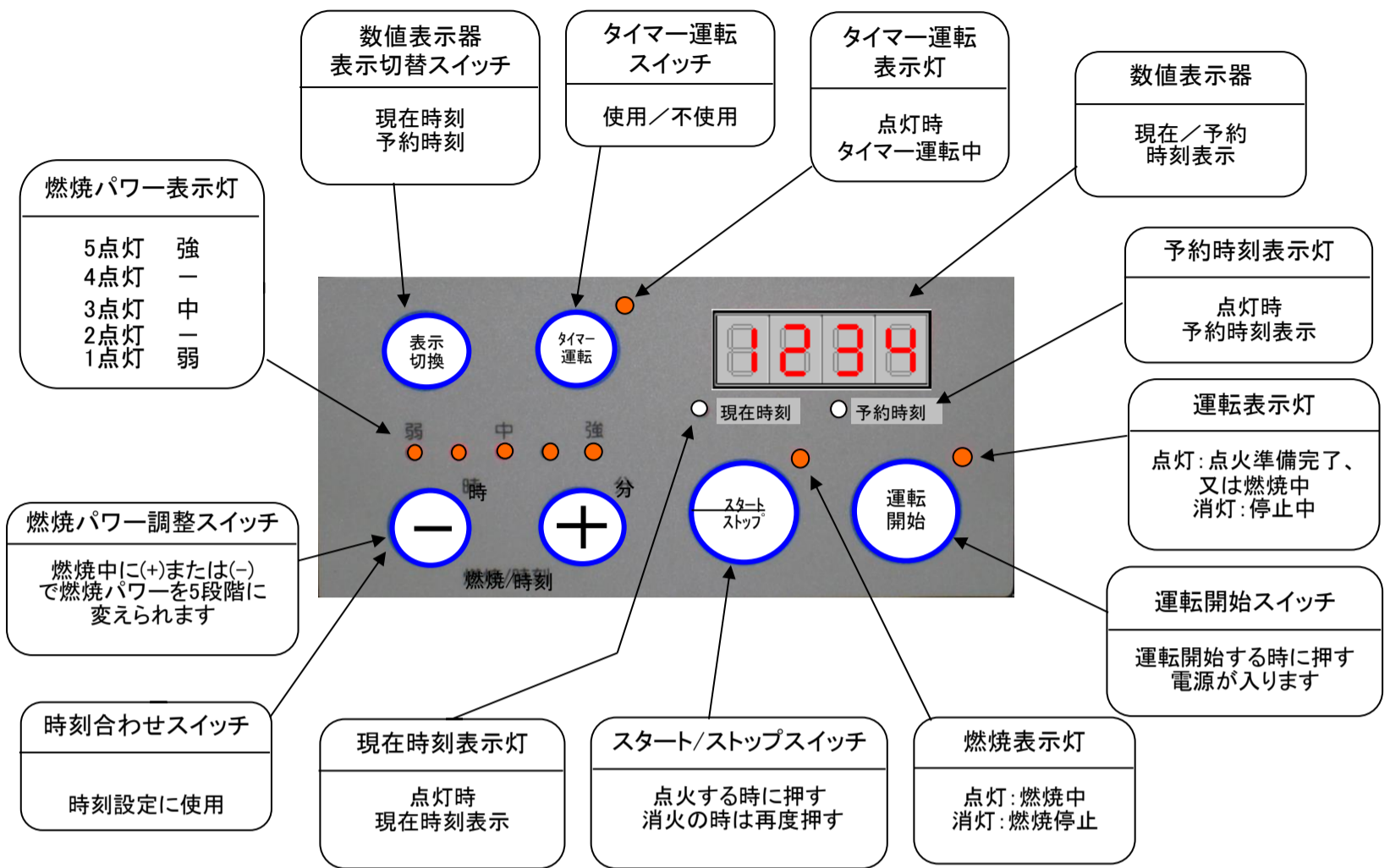
後板カバーを外した状態です



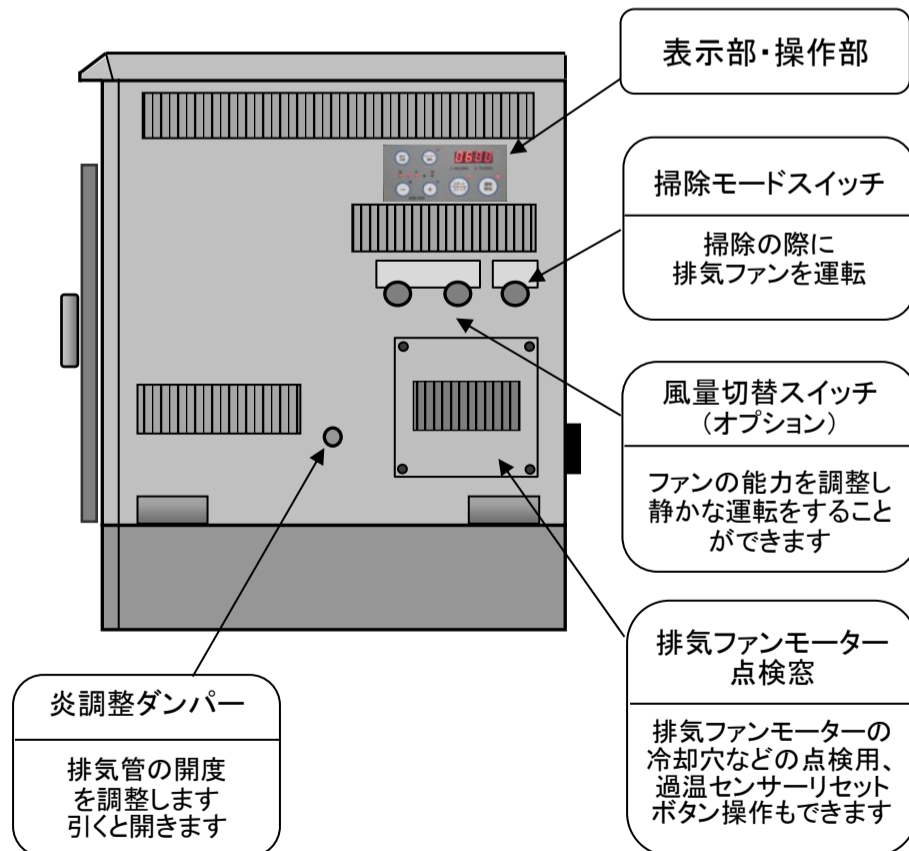
燃焼室内



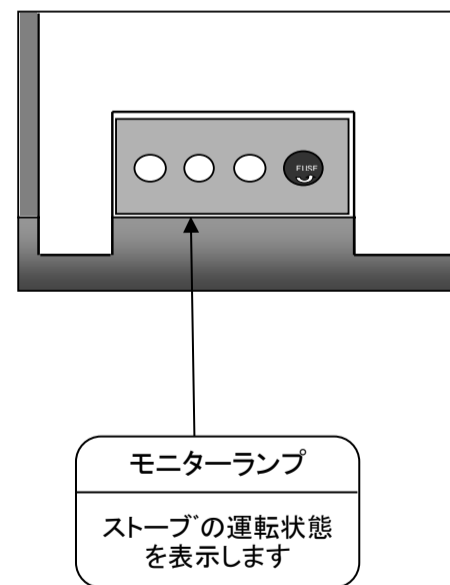
◆ 各部のはたらき 表示部・操作部



右側面



背面



◇ 各部のはたらき 湯沸し部



1. 上部の湯沸し部は、カバーを開けて安全にやかんを置くことができます。鍋なら20cmまで置くことができます。
2. 上部の湯沸し部のカバーは脱着することができますので、大きな鍋などを置きたい場合は、カバーを外してください。22cmの鍋を置くことができます。



注意：湯沸かし部のカバーの脱着は運転中には行わないで！
カバーは高温になることがありますので、脱着は運転前の熱くないいときにおこなってください。

◇ ご使用前の準備

給排気筒の設置

- ◇ 給排気筒が正しく設置されている事を確認してください。
- ◇ 標準的な設置は、巻末の排気筒設置例を参照してください。



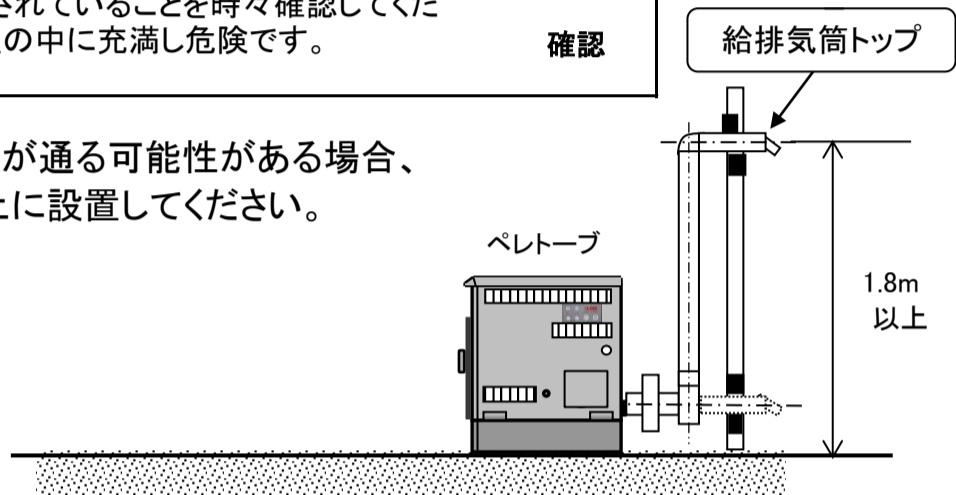
給排気筒確認

初めて使用する時、またシーズンの初めは給排気筒の中に鳥などが巣を作っていないか確認してください。
使用中時々排気トップの金網にススが付着していないか点検してください。ススが付着している時は清掃してください。
使用中は、排気筒が確実に接続されていることを時々確認してください、外れていると排気ガスが部屋の中に充満し危険です。



確認

- ◇ 給排気筒トップの下側を人が通る可能性がある場合、トップの位置を地上1.8m以上に設置してください。

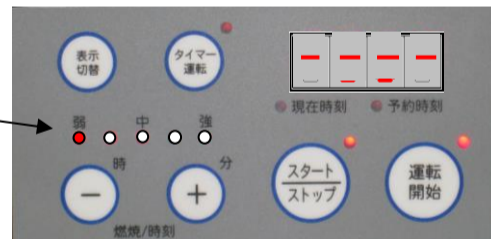


点火前の準備と確認

- ① 水平で丈夫な床の上に設置してください。
- ② 電源プラグをコンセント(AC100V)に差し込んでください。
電源コードは、伸ばして差し込んでください、電源コードを束ねたままにしないでください。

お知らせ

電源プラグをコンセントに差し込むと、表示部・操作部の
燃焼パワー表示灯の最小(弱)の位置が点灯します。

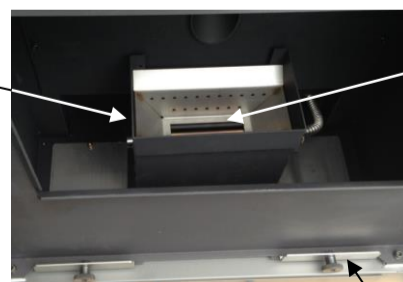
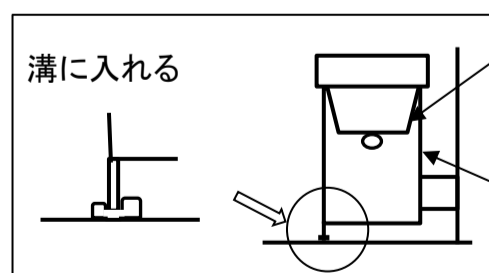


③ 燃焼室内の確認

- ◇ 開閉扉を開けてバーナーポットや着火用ヒーターが正しい位置に組み立てられていることを確認してください。
- ◇ 灰落とし板がきちんと奥まで挿入されていることを確認してください。




確認




- ◇ バーナーポット内に灰がたまっていないことを確認してください。
灰がたまっている場合には、付属の灰掻き棒を使用して掃除してください。
- ◇ 確認後は開閉扉を確実に閉めてください。


使用木質ペレットについて


- ◇ 本ストーブに使用できる燃料は、木質ペレット燃料です。

 **警告: 使用燃料は木質ペレット以外厳禁**
木質ペレット燃料以外の燃料、紙、プラスチック、炭などを絶対に使用しないでください。ストーブの故障や火災の原因になります。

 禁止

- ◇ ペレットのバーナーポットは、木部ペレット(ホワイトペレット)、または全木(混合)ペレットが最適な燃焼となるように設計されています。
樹皮ペレット(バークペレット)を使用するとバーナーポット内にクリンカが溜まりやすく故障の原因となります。

 **注意: 樹皮ペレット(バークペレット)などは使用しないで**
樹皮ペレット(バークペレット)を使用するとストーブの故障の原因となります。
ホワイトペレットまたは混合ペレット以外の燃料を使用して不具合が生じた場合は、保証の対象外となります。


 禁止


- ◇ 木質ペレットは、粉の多いものや湿気を帯びたものは、使用しないでください。
故障や燃焼不良の原因になります。
- ◇ 木質ペレットは、太さが6~8mm径のペレットが使用できます。


燃料の投入

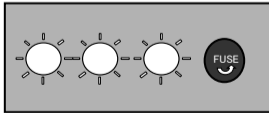
- ◇ 本体上部、ペレット投入ホッパーの蓋を開けて、ホッパー内に木質ペレットを投入してください。ホッパー容量は約35リットルで最大20kgの木質ペレットを投入できます。

設置後初めて使用時、メンテナンスやシーズンオフなどでホッパーを空にした後再運転するときは、ペレットをホッパー内に入れた後、スタート/ストップスイッチを押して運転開始後に燃焼パワー調整スイッチの \ominus \oplus を同時押すことでスクリュを強制的に連続運転できます。
ペレットがバーナーポットに落ちてくることを確認してください。

 **重要**


同時に押してください

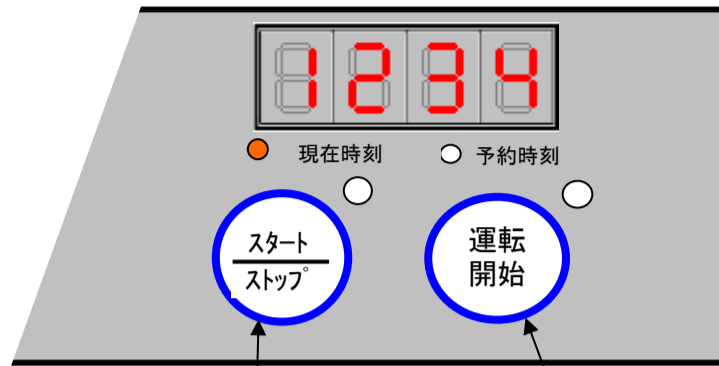
 **注意: 開閉扉は開けないでください。**
スクリュを動かすときは、必ず前面の開閉扉を閉めた状態で行なってください。
ペレットの落下を見ようと扉を開けると、安全装置が働いてスクリュが停止します。
スクリュが正しく回転しているときは、裏面のモニターランプの3つのランプが点滅します。炎調整ダンパーを絞りすぎると風圧センサーが作動することがありますので注意してください。


モニターランプ

- ◇ ペレット投入ホッパー内は空にしないでください。
運転中も定期的にペレット残量を確認し、適宜ペレットをホッパー内に追加してください。

◇ 運 転

点火のしかた



②スタート/ストップスイッチ

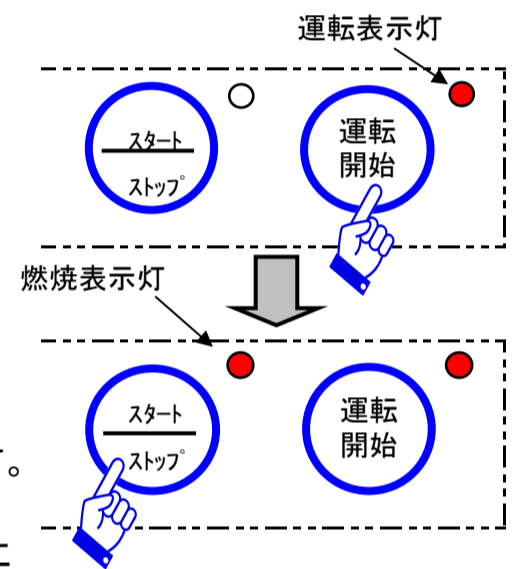
①運転開始スイッチ

① 運転開始スイッチを押す

- ◇ 運転表示灯が点灯します
- ◇ 排気ファンが運転開始し、給気・排気を始めます。
- ◇ 着火用ヒーターに通電します。

② スタート/ストップスイッチを押す

- ◇ スタート/ストップスイッチ上の燃焼表示灯が点灯します
- ◇ 約2分後に燃料供給モーターが運転を始め、ペレットをバーナーポットに供給し始めます。
- ◇ 約3分後、落下したペレット燃料に点火し燃焼を開始します。
(スタート後、5分間は燃焼パワー調整はできません)
- ◇ 温風ファンはスタート/ストップスイッチを押した後、6分後に運転開始します。



お知らせ

運転開始スイッチを入れ、排気ファンが運転を開始した後、スタート/ストップスイッチを押して燃料供給をスタートさせなかった場合は、15分間排気ファンの運転と着火用ヒーターの通電を継続し、その後に着火不良と判断し自動的に運転を停止します。



警告: 点火は自動で行なうこと

ライターやマッチで点火したり、点火剤/着火剤は使用しないでください。
やけどや火災の原因になります。



禁止

お願い

- ・初めてご使用の場合は、10ページに記載のスクリュの連続運転を行なってペレットがバーナーポットに落下することを確認してください。
- ・運転を開始するときは炎調整ダンパーを約15mm程度開いた位置で行なって下さい。燃焼を開始した後、前面窓ガラスから炎の状態を確認し、最適な炎になるように炎調整ダンパーで調整してください(煙突の長さにより、開く程度は異なります)。
- ・点火時ペレットに着火して約1分間程度、室外の排気筒から煙が出ることがありますが異常ではありません。しばらくすると煙は出なくなります。

お知らせ

◇ スタート/ストップスイッチの押し忘れ

運転開始スイッチを入れ、排気ファンが運転を開始した後、スタート/ストップスイッチを押して燃料供給をスタートさせなかった場合は、15分間排気ファンの運転と着火用ヒーターの通電を継続し、その後に着火不良と判断し自動的に運転を停止します。

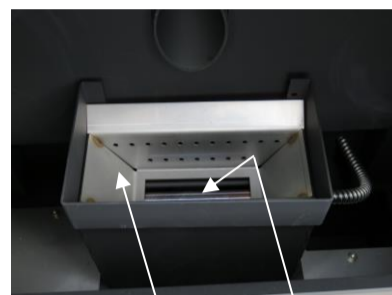
◇ 着火失敗

スタート/ストップスイッチを押してペレットが供給開始されても、バーナーポットの中に灰がたまっていたり、ペレットの水分が高かったりした場合は、ペレットがバーナーポットにたまり、くすぶるだけで着火できないことがあります。この場合も15分間は、排気ファンとヒータは運転した後、着火不良と判断し、運転を停止します。

このときヒーターが過熱され、ペレットがバーナーポットの中にたまっていますので、くすぶることがあります。

あわてずに再度運転開始スイッチを押すか、または掃除モードスイッチを押して、排気ファンが作動している状態でバーナーポットにたまったペレット、灰を除去してください。(ヒータが見える状態に)。

その後に再度点火操作を行なってください。



バーナーポット

着火用ヒーター



着火失敗時のくすぶり中に開閉扉開放厳禁

くすぶっている場合は、必ず排気ファンを運転してください。排気ファンが運転されていない状態で扉を開けると非常に危険です。

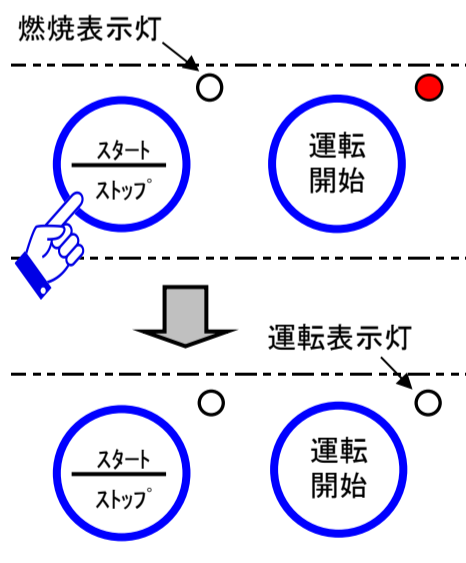


禁止

消火のしかた

① スタート/ストップスイッチを押す

- ◇ スタート/ストップスイッチ上の燃焼表示灯が消灯します。
- ◇ 燃料の供給が止まり、約3分後に自然鎮火します。
- ◇ ストーブが高温の間、排気ファン/送風ファン共運転を継続します。



② 消火を確認する

- ◇ 約20～30分後、ストーブ本体の温度が下がると自動的に排気ファン/送風ファンが停止し、運転開始スイッチ上部の運転表示灯が消灯します。



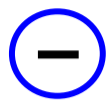

注意: 電源プラグを抜いて消火しないでください
温風吹出し口や天板など、ストーブ本体が高温になり、やけどや故障の原因になります。



重要

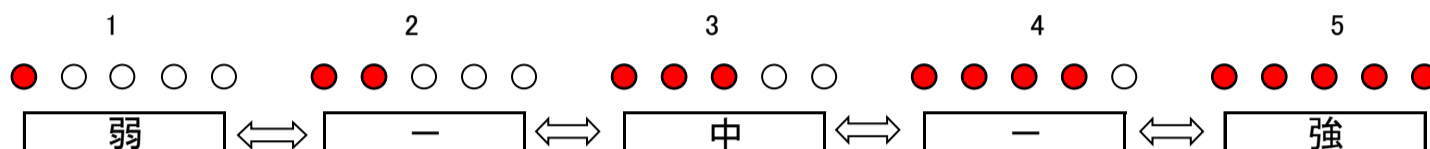
燃焼パワー調整のしかた

① 運転中に燃焼パワー調整スイッチを押す

 または  を押す。



一度押す毎に、燃焼パワー表示灯が点灯、又は消灯し燃焼パワーが調整できます。



弱(最小)で、約3,500kcal/hの発熱量となり、強(最大)で約10,700kcal/hの発熱量になります。
(木質ペレットの質により発熱量は異なります。)



注意: 弱(最小)での運転注意

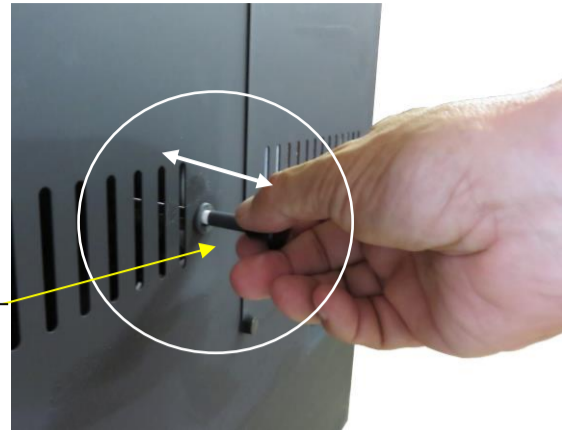
運転条件やペレットの性状により、最小で燃焼させると、途中火が消えることがあります。
消える場合は、燃焼設定を弱より大きい設定(燃焼パワー2)以上で運転してください。このとき空気量の調整も行なってください。

炎の調整のしかた

完全燃焼させるためには、炎調整ダンパーにて調整する必要があります。前面の窓ガラスから炎の状態を見て、正常な炎となるように風量を調整してください。

炎調整ダンパーを引くと空気量が増え、押込むと空気量が減少します。

炎調整ダンパー



正常な炎



異常な炎(過大な空気)

燃料の供給量に対して空気量が多いと、燃料は激しく燃え火の粉が多数周囲に飛び、極端な場合はバーナーポット内の火種を飛ばしてしまい燃焼が継続できなくなることがあります。



異常な炎(空気不足)

燃料の供給量に対して空気量が少ないと赤く暗い炎となり、炎はゆらゆらとゆれ不完全燃焼となりススが発生、前面ガラスに付着し見えにくくなったり、温風の温度が低くなる場合があります。



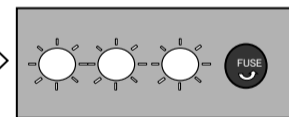
注意: 空気不足に注意

燃焼空気が不足した状態で燃焼させると、燃料の燃焼速度が遅くなり燃料のペレットがバーナーポットからあふれることがあります。炎調整ダンパーを閉じすぎないように注意してください。

また、炎調整ダンパーを閉じすぎると、燃焼室内の負圧が確保されなくなり、風圧センサーが作動して燃料供給が停止することがありますので、裏面のモニターランプが3つ点滅することを確認しながら調整してください。



確認



モニターランプ



警告: 運転したまま寝ないでください

ストーブを運転したまま就寝しないでください。就寝中の外気温度の変化により、途中で燃焼が停止することがあります。予想しない事故を起こすことも考えられます。



禁止

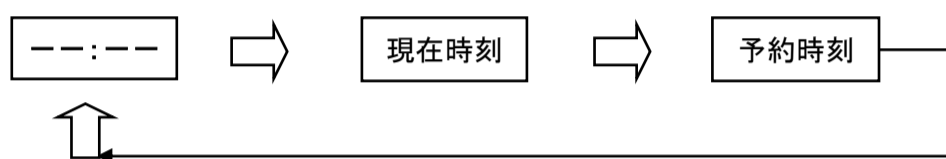
タイマー運転のしかた

① 現在の時刻を確認してください。

表示部・操作部の数値表示器の表示を表示切替スイッチを押して切り替えて現在時刻を確認してください。



表示切替スイッチを押すと、数値表示器の表示が次のように変わります。



注意: 現在時刻の設定

数値表示器の下側の予約時刻表示灯が点灯しているときは予約時刻を表示、現在時刻表示灯が点灯しているときは現在時刻を表示します。表示された現在時刻が正しくない場合は正しい時間を設定してください。(17ページの現在時刻の設定参照)



確認

② 予約時刻(運転を開始したい時刻)を確認してください。

数値表示器の表示を表示切替スイッチを押して切り替えて、予約時刻を確認してください。予約時刻を変更したい場合は、設定変更をおこなってください。

(17ページの予約時刻の設定参照)

③ タイマー運転の準備

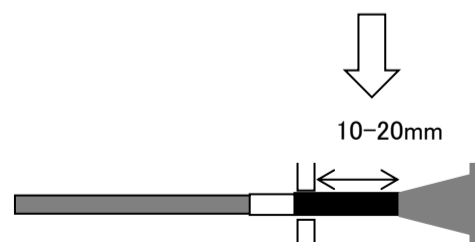
- ◇ 燃焼停止状態であることを確認する

燃焼停止中(運転開始スイッチの運転表示灯とスタート/ストップスイッチの燃焼表示灯が消灯している状態)であることを確認する。

- ◇ 開閉扉を確実に閉めて、開閉ハンドルを確実に閉める

- ◇ 燃焼パワーを中以下に設定する

- ◇ 炎調整ダンパーの開度を約10~20mm開いた位置にセットする
炎調整ダンパーは、排気筒の長さやレイアウトにより変わりますので、開度を調整しながら、適正開度を把握してください。



④ タイマー運転のセット

タイマー運転スイッチを押して(3秒間長押し)ください。
タイマー運転表示灯が点灯すればタイマー運転のセットは完了です。



⑤ タイマー運転開始

予約した時刻になると運転を開始します。
タイマー運転予約中は、数値表示器に予約時刻を表示し、運転を開始すると現在時刻が表示が変わります。

⑥ タイマー運転の解除

タイマー運転を開始後、約1.5時間で自動的に運転を停止します。これは不在時燃焼による事故を防止するため、運転を継続する場合には自動停止前にタイマー運転を解除してください。

- ◇ 自動運転停止時刻の15分前から、数値表示器にOFF表示、タイマー運転表示の点滅、および警告音(ピ、ピ、ピ・・・ピ、ピ、ピ・・・)によりお知らせします。
- ◇ 運転を継続する場合は、タイマー運転開始後1.5時間以内にタイマー運転スイッチを押して、タイマー運転を解除してください。

タイマー運転が解除されると数値表示機のOFF表示が消え、現在時刻が表示されます。
また、タイマー運転数値灯が消えます。



注意:時刻合わせ

タイマー運転は現在時刻が正しく設定されていないと希望する時刻に運転を開始することができません。

注意:開閉扉を必ず閉める

タイマー運転を行なうときは、開閉扉が確実に閉まっていることを確認してください。扉が開いていると、運転開始できないか、煙が室内に流出し危険です。

注意:バーナーポットの清掃

タイマー運転をおこなうときは、事前に(翌朝のタイマー運転セットをする場合は、前日の運転停止後)バーナーポットの灰を取り除いてください。

注意:タイマー運転セット時の停電

タイマー運転の予約中に停電が発生すると、タイマー運転予約は解除されます。



確認

時刻の合わせかた

現在時刻の設定

- ① 表示切替スイッチを押して、現在時刻表示灯を点滅させる。現在時刻表示灯が点滅しているとき、数値表示器には現在時刻が表示されます。ただし、電源コンセントを抜いたり、停電があった場合には、時刻設定がクリアされ数値表示器は00:00と表示されます。



● 現在時刻 ○ 予約時刻

- ② 現在時刻表示灯が点滅しているときに、時刻合わせスイッチ（時）・（分）を同時に押してください、数値表示器の数値表示が点滅します。

- ③ 時刻合わせスイッチ（時）または（分）を押して数値表示器の時刻を合わせてください。このとき、スイッチを押し続けると早送りになります。



- ④ 時刻合わせが終了したら、表示切替スイッチを押してください。数値表示器の点滅表示が点灯に変わると設定時刻が登録されます。



- ⑤ 表示された時刻を確認してください。

12時30分

● 現在時刻 ○ 予約時刻

お知らせ

時刻合わせに入って(数値表示器が点滅中)30秒間操作がないと自動的に時刻合わせモードは終了します。

タイマー運転時刻の設定

- ① 表示切替スイッチを押して、予約時刻表示灯を点滅させる。予約時刻表示灯が点滅しているとき、数値表示器には以前設定された時刻が表示されます。

数値表示器に00:00が表示されるときは、電源コンセントを抜いたか停電などにより電源がOFFになったことを示します。

- ② 予約時刻表示灯が点滅しているときに、時刻合わせスイッチ（時）・（分）を同時に押してください、数値表示器の数値表示が点滅します。

予約時刻 朝5時30分



- ③ 時刻合わせスイッチ（時）または（分）を押して数値表示器の時刻をご希望の運転開始予約時刻に合わせてください。このとき、スイッチを押し続けると早送りになります。



○ 現在時刻 ● 予約時刻

- ④ 時刻合わせが終了したら、表示切替スイッチを押してください。数値表示器の点滅表示が点灯に変わると設定時刻が登録されます。

- ⑤ 表示された時刻を確認してください。

お知らせ

時刻合わせに入って(数値表示器が点滅中)30秒間操作がないと自動的に時刻合わせモードは終了します。

◇風量切替スイッチ（低騒音モード）の操作

☆ 風量切替スイッチは、オプションです。より静かな運転をしたいときに有効です。



- ◇ 風量切替スイッチは『温風ファン用』と『排気ファン用』の2種類があります。
温風ファン用は、室内へ温風を供給する温風ファンの能力を調整するものです。
排気ファン用は、燃焼ガスを室外へ排出する排気ファンの能力を調整するものです。
- ◇ 点火時、または運転中に温風ファンと排気ファンの風量切替スイッチは、強・中・弱の3段階で風量を切替えることができます。
- ◇ 温風ファン用の風量切替スイッチ
温風ファン用は、室内へ温風量を増減したり、温風ファンの運転音を調節したいときに切替えてください。
「強」: 温風の勢いが強くなりますが、温風温度が少し下がります。
「弱」: 温風の勢いが弱くなり、温風温度は上がります。



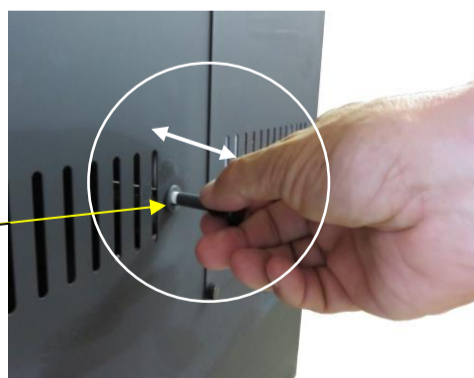
警告: 燃焼パワー「強」で温風ファン「弱」禁止
ストーブ本体の温度が上昇して、安全装置が作動して
運転停止するおそれがあります。



禁止

- ◇ 排気ファン用の風量切替スイッチ
排気ファンの運転音を調節したいときに切替えてください。
「強」: 燃焼空気量が増えますので、炎調整ダンパーで燃焼状態を調整してください。
「弱」: 燃焼空気量が減りますので、炎調整ダンパーを少し開いて燃焼状態を調整してください。

炎調整ダンパー



◇ 安全装置

安全装置が作動するのは、何らかの異常があるときですから、下記の処置をしても正常にならない場合には、販売店にご相談ください。

安全装置名	はたらき	処置
対震自動消火装置	地震(震度5以上)のときや強い振動や衝撃を受けたときに、感震センサーを作動させて自動的に運転を停止させる安全装置です。表示部の数値表示器に"E001"が点滅します。	ストーブ本体や給排気筒などに外れ、ゆるみなどの無いことを確認後、電源コンセントを抜いてから再度差込んでください。 電源コンセントを差込んだときに排気ファンが運転を再開したときは再点火操作はできません。排気温度が下がって排気ファンが停止後に、再点火操作をしてください。
停電安全装置	運転中に停電や電源プラグを抜くなどしたときに、自動的に運転を停止させる安全装置です。再び通電されても排気が一定温度まで下がらないと運転できません。	再通電後に再点火操作をしてください。(通電後は、排気温度が一定温度まで下がってから再点火操作をおこなってください。)
過熱防止装置	運転中に異常な燃焼によりストーブ本体温度が上昇したときに過温センサーが作動して自動的に運転を停止させる安全装置です。	排気ファンモーター点検窓を開けて過温センサーのリセットボタンを押す必要があります。 販売店に連絡して原因究明することをお勧めします。
点火安全装置	点火操作した後に15分経過しても着火できなかった場合、自動的に運転を停止させる安全装置です。	次のことを確認後に再点火操作をしてください。
燃焼制御装置	運転中に燃焼が停止したときに、自動的に運転を停止させる安全装置です。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペレット投入ホッパー内が空のときは、ペレットを補給してください。 ・燃焼室内やバーナーポットにペレットや灰、クリンカがたまっていれば取り除いてください。 ・燃焼パワーと炎調整ダンパーの開度が適正か確認してください。 ・風圧センサーの導圧ラインが詰まっているか確認してください。
逆圧防止装置	排気筒側が詰まったり、強い風により逆圧がかかる、または排気ファンの異常や開閉扉が開いた場合に自動的に運転を停止させる安全装置です。	<p>次のことを確認後に再点火操作をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・灰受け皿、開閉扉などが開いていないことを確認してください。 ・室外の排気筒が障害物などで詰まっているか確認してください。 ・排気ファンの能力低下がないか確認してください。 ・風圧センサーの導圧ラインが詰まっているか確認してください。

◇ お手入れ、その他

日常の点検とお手入れ

ペレトブの点検、お手入れは必ず運転停止状態にして、ペレトブが冷えている状態でおこなってください。

☆ 掃除モードスイッチ

開閉扉を開けて燃焼室内の掃除や手入れの際にススや灰が室内に舞うのを防止するため、排気ファンを強制的に運転するスイッチをストーブ右側面に用意しました。スイッチを押すとランプが点灯し、ストーブの運転状態に関係なく排気ファンを運転します。もう一度スイッチを押すとランプが消灯し排気ファンが停止します。

通常の運転時には、必ずスイッチをオフにしておいてください。

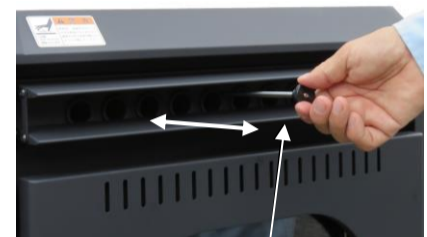


スイッチONで点灯します

使用するたびに

① 熱交換パイプの清掃

点火する前に温風吹出し口のスス落としノブを前後に動かして、熱交換パイプを清掃してください。



スス落としノブ



注意：運転中は触るな

スス落としノブは運転中は高温になります。やけどしますので触らないでください。



燃焼中

② ストーブ周囲可燃物の点検

ストーブの周囲は、常に整理・清掃し、燃えやすいものは置かないようにしてください。ストーブ本体、温風吹出し口、給気パイプなどにほこりや紙、糸くずが付着していないことを確認してください。

③ 給気筒・排気筒・給排気筒トップの周囲には、危険物や障害物が無いようにしてください。

④ 燃料の確認

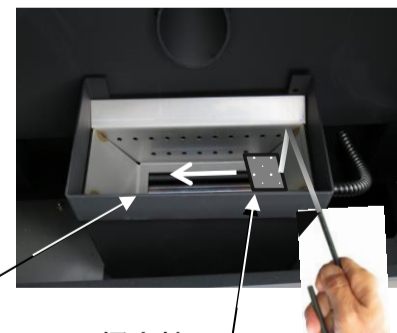
ペレット投入ホッパー内に燃料の木質ペレットが十分入っているか確認してください。少ないようであれば補充してください。またペレット投入ホッパー内に異物がないか確認してください。

⑤ ペレット投入ホッパー内の点検

ペレットの種類によって、もしくはペレット投入ホッパー内のペレットが残り少なくなると、ペレット投入ホッパー内にペレットがすり鉢状滞留し、燃料供給されにくくなることがあります。このときはペレットがペレット投入ホッパー内の中央に来るように寄せてください。

⑥ バーナーポットの確認

バーナーポットに灰がたまると着火しにくくなりますので、消火の都度清掃してください。点火操作の前には、開閉扉を開けてバーナーポット内に灰のないことを確認してください。灰がある場合には、付属の灰掻き棒でバーナーポットから掻き出してください。



バーナーポット内の清掃

灰掻き棒

⑦ 燃焼室内に灰が多たまっている場合は、灰落とし板を引いて灰受け皿に落す。(次ページ参照)

定期的に

1ヶ月に1度程度は、定期的に以下のお手入れ、点検をおこなってください。
必要に応じて次ページ以降の「オフシーズン前の定期清掃」に示す内容を組み合わせて
お手入れ、点検をおこなってください。

① 燃烧室内、灰の除去と清掃

灰がバーナーポット周りの燃烧室内に多く溜まった場合；

- ① 開閉扉を開けて、前面の灰落とし板を引いて
- ② 灰受け皿に燃烧室内の灰をブラシなどを使って落としてください。



注意：灰落とし板を閉める
灰落とし板は元の位置に確実に
戻してください。

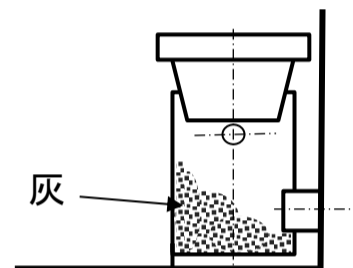


確認

② バーナーポット、着火用ヒータおよびバーナーポットスタンドの清掃

定期的にガード、バーナーポットを取出し清掃してください。

このとき、バーナーポットスタンド内に灰が溜まっている場合は
23ページの「燃烧室の清掃」にしたがって、バーナーポット
スタンドから着火用ヒータを抜いて、バーナーポットスタンド内
の灰を捨てると同時に着火用ヒータもワイヤブラシなどで掃除
してください。また、燃烧室内の炎返し裏側の灰も燃烧室内に
落として清掃してください。



炎返し裏側の灰

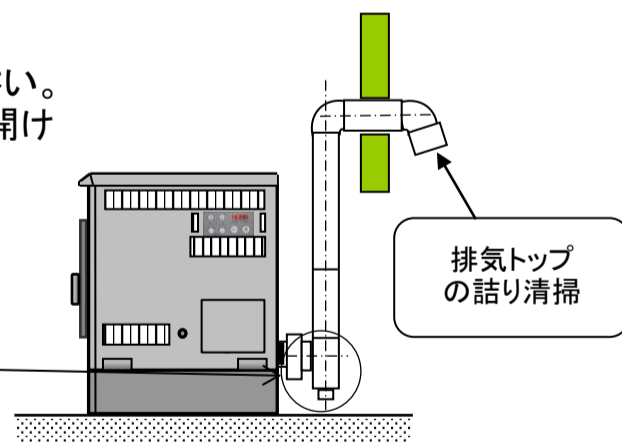
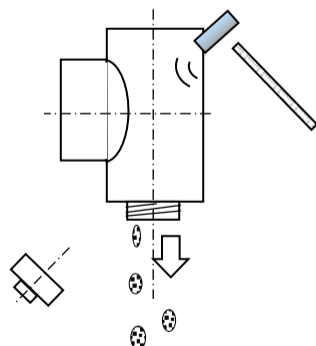


③ 排気筒の点検

排気筒の屋外トップには金網がとりつけてありますが、
ススや灰が詰まる事があります。定期的に清掃してください。

T字管を使用している場合には、内側の排気側の蓋を開けて
排気筒を軽くたたき、灰を排出してください。

T字管



オフシーズン前の定期清掃

暖房シーズンが終わりオフシーズンに入る前に、必ず定期清掃してください。
長期にわたり、故障なく安心してご使用いただくために、清掃をお願いいたします。

ペレット投入ホッパー内の清掃

最初にペレット投入ホッパー内の清掃から取り掛かってください。

① 燃料ペレットの取出し

ペレット投入ホッパー内にペレットが残っている場合は、燃料スコップなどでペレットを取出してください。

② スクリュー内のペレットの取出し

燃焼を継続しながら、スクリュー内に残っているペレットと木粉を、完全に排出してください。短時間内で排出する方法としては、燃焼停止中に表示部・操作部の燃焼パワー調整スイッチのプラス(+)、マイナス(-)を同時に押せば、スクリューを強制回転できます。

スクリューが回転しても、ペレットがバーナーポットに落下しなくなったら排出完了です。燃焼パワー調整スイッチのプラス(+)、マイナス(-)を同時に押してペレットを排出する場合は、一旦完全停止(スタート/ストップスイッチを押したあと、運転表示灯が消灯する)した後に、再度、運転開始スイッチとスタート/ストップスイッチのプラス(+)/マイナス(-)を同時に押してください。スクリューを強制回転できます。



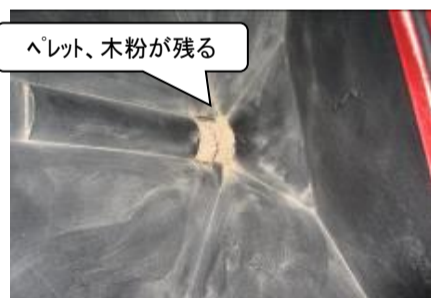
注意: スクリュー強制回転は15分以内

ペレットは、スクリューの強制回転はスタート/ストップスイッチを押したあと15分だけ可能ですので、15分を超えてこの操作をおこなう場合は、最初の手順からやり直してください。



確認

また、ペレット投入ホッパー内のスクリューに木粉が一部残りますので、掃除機で吸い取るときれいに清掃できます。



回転物注意

警告: ペレット投入ホッパー内回転物危険

ペレット投入ホッパー内に手を入れる場合には、必ず電源プラグを抜いてください。スクリューの回転によりけがをすることがあります。



確認



注意: スクリュー内にペレットを残さない

スクリュー内にペレットまたは木粉が残っていると、長期保存中に湿気により固まって、次のシーズン時に運転できないことがあります。



確認

燃焼室の清掃

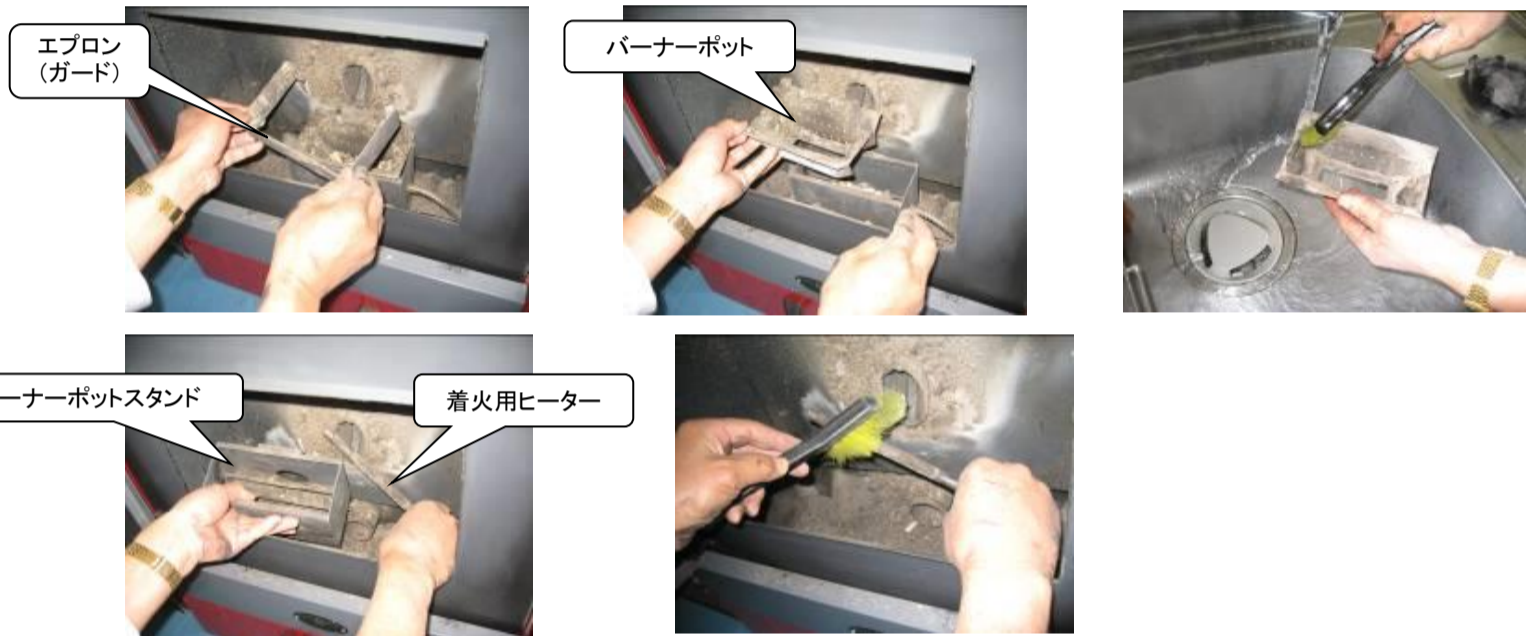
① 灰の排出

燃焼室内に溜まっている灰を灰受け皿に落としてください。燃焼室下部にある左右の灰落とし板を引いてください、手を汚さずに灰を排出できます。

② バーナーポットの清掃

バーナーポット上にあるエプロン(ガード)を取り外してください。バーナーポットを取り外して、空気穴をブラシ等で十分に清掃してください。水洗いしてから乾燥させてください。

バーナーポットスタンドより着火用ヒーターを引き抜いてください。そして、バーナーポットスタンドを取り外して清掃してください。着火用ヒーターもブラシ等で表面に付着しているクリンカを取り除いてください。

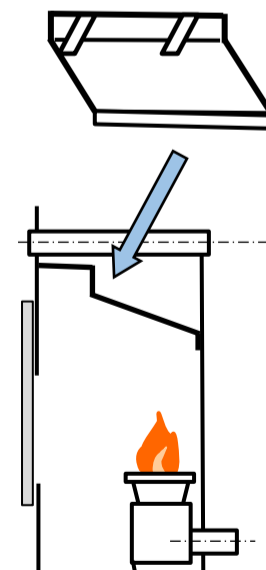


③ 炎返しの清掃

燃焼室上部に設置されている炎返しを取り外してください。この炎返しの裏側に燃焼灰が溜まっていますので、取り外す際には灰が飛散しないようにゆっくりとおこなってください。飛散防止のために掃除モードボタンを押して、排気ファンを作動させてください。

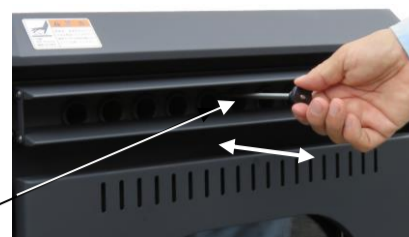


取付け時、向きに注意！



④ 熱交換パイプの清掃

熱交換パイプの表面には、灰、ススが付着していますので、前面のスス落としノブを前後させて、清掃してください。灰、ススが付着していると、熱交換能力が低下します。

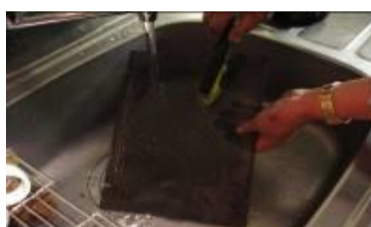
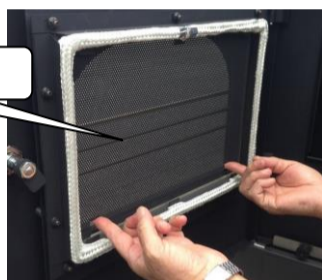


スス落としノブ

⑤ 窓ガラスの清掃

窓ガラスの内側に設置されているパンチングプレートを取り外してください。そして、パンチングプレートは水洗い等で清掃してください。ガラスの表面に付着しているススを取り除いてください。方法としては、水で濡らした雑巾に灰を少量付けてガラス表面をこすると簡単にススを取り除くことができます。また、パンチングプレートはめ込み部の灰は、掃除機で取り除いてください。

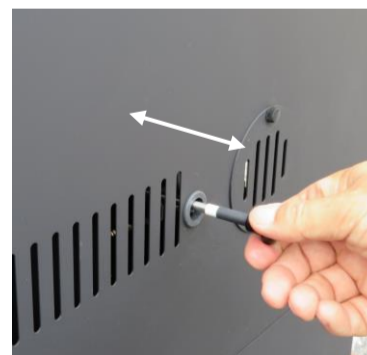
パンチングプレート



⑥ 炎調整ダンパーの清掃

炎調整ダンパーは、ノブを作動させて全閉、全開を何度もくり返して清掃してください。板状のダンパーに付着したススなどを取り除きます。

その後、スイッチ操作を行ない排気ファンを作動させて、取り除いたススなどを排出してください。炎調整ダンパーが固着した場合には、軽くハンマーなどで衝撃を与えると動くようになります。



給排気筒の清掃

給排気筒の清掃は、まずストーブ本体より変換アダプターまたはT字管を取り外して変換アダプターまたはT字管よりおこなってください。

その後、直管、エルボなどを取り外して、排気管内部のススを取り除いてください。

排気筒の先端に排気トップが取り付けられている場合は、特に排気トップの金網にススが付着していないことを確認ください。排気トップが取り付けられていない場合は、清掃後に排気筒の先端部に適当な蓋をしてください。夏場に小鳥が巣を作る可能性があります。



電気品の清掃

電気品の清掃としては、排気ファンモータ、温風ファンモータの冷却用の空気穴に綿ぼこり等の異物が詰まっていることが有りますので、清掃を確実に行ってください。NST2型は、点検窓がありますので、窓を開いて掃除機で行ってください。冷却用の空気穴に綿ぼこり等の異物が詰まった場合、モータの冷却能力が低下し、サーマルが作動することにより、モータが停止します。



電源コードは、コンセントより引き抜いておいてください。



☆ 定期点検のおすすめ

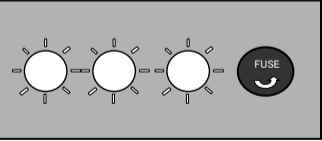
シーズンの終了時およびシーズンの初めにはペレトーブ本体および排気筒の点検をおすすめします。詳しくは販売店に相談してください。


異常の見わけかたと処置のしかた

(その1): 異常のお知らせ


運転中に安全装置が作動すると、異常をお知らせする表示がありますので、下記の処置をおこなってください。

異常のお知らせ	異常のお知らせの内容	処置内容
<p>すべてのランプが消えて、数値表示器にE001が点滅している。</p> 	<p>感震センサーが作動 ストーブに地震などの急激な振動が加わり感震センサーが作動した。</p>	<p>電源コンセントを抜いてから、再度差し込んでください。 コンセントを差し込んだとき排気ファンが運転を再開したときは、運転開始スイッチを入れず、排気ファンが停止するまでお待ちください。</p>
<p>ストーブ背面のモニターランプの右端のランプのみ点灯している。</p> 	<p>過温センサーが作動 運転中に異常な燃焼によりストーブ本体温度が上昇し安全装置の過温センサーが作動し燃料の供給を停止した。</p>	<p>ストーブの温度が下がるのを待ち排気ファンモーター点検窓から、内部の過温センサーの赤色の手動リセットボタンを押してください。</p> 
<p>ストーブ背面のモニターランプの右2つのランプのみ点灯している。</p> 	<p>風圧センサーが作動 運転中に炎調整ダンパーの絞り過ぎや排気ファンの異常、排気筒の詰まり、強い風による逆圧により風圧センサーが作動し燃料の供給を停止した。</p>	<p>次のことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炎調整ダンパーを絞り過ぎていないか ・灰受け皿、開閉扉が開いていないか ・室外の排気筒が障害物などで詰まっているか ・排気ファンの能力低下がないか ・風圧センサーの導圧ラインが詰まっているか ・外の強風により逆圧がかかっているか
<p>ストーブ背面のモニターランプが点いていない。</p> 	<p>電源がオフ、電氣的な故障 ヒューズ切れまたは制御基盤などの電気部品の故障</p>	<p>次のことを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源コンセントが抜けていないか ・ヒューズが切れていないか ・基盤などの電気部品交換 ・スタート/ストップスイッチの押し忘れ

<p>参考: モニターランプの正常な状態は、3つのランプが点滅している。</p> 	<p>これは、ペレット投入ホッパー内のスクリュが正しく回転していることを示します。 3つのランプが点灯時にスクリュが回転しています、消灯時はスクリュは回転していません。</p>
--	--



注意: 過温センサー作動時は高温注意
過温センサーが働いたときは、センサー中央の赤いリセットボタンを押す必要があります。作動直後は高温の部分がありますのでお客様で処置せず、販売店へ連絡することをお勧めします。



高温注意

(その2):その他の異常

前項の安全装置の作動による異常のお知らせ以外の異常が生じた場合には、以下の表により処置してください。

現象	考えられる原因	処置
スタート時は正常に燃焼するが、時間の経過と共に燃焼の勢いがなくなり、ペレットがバーナーポットに溜まる。炎も赤く、ススが多くなる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 排気ファンモータの冷却穴に綿埃などが付着して十分な冷却が出来なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 掃除機でモータの冷却穴に詰っている綿埃などを除去する。 (25ページ電気品の清掃 参照)
運転中に炎が消えて、運転を停止した	<ul style="list-style-type: none"> ● ペレット投入ホッパー内にペレット燃料がない。 ● バーナーポット内の種火が燃え尽きた。 ● ペレット燃料の形状や品質が悪い。 ● タイマー運転時に着火後、1.5時間以内にタイマー運転を解除していない。 ● 風圧センサーが作動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ペレット燃料をいれる。 ○ 燃焼パワー表示灯が弱になっている場合は、燃焼パワーを大きくする。 ○ 推奨品の燃料を使用する。 ○ タイマー運転時に着火後、1.5時間以内にタイマー運転を解除する。 ○ 26ページ参照
炎調整ダンパーによって炎の調整ができない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 給排気筒の詰まり ● バーナーポットの位置が悪い ● 開閉扉が開いているかパッキンから空気が洩れている。 ● 空気取り入れパイプが塞がれている。 ● 排気ファンの故障 ● 炎返しの背面に灰やクリンカが堆積している ● バーナーポット底部に灰やクリンカが溜まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給排気筒、排気筒トップ清掃 ○ バーナーポットの位置を修正 ○ 開閉扉をきちんと閉める、必要ならパッキンを交換する。 ○ 給気口を確認し清掃する。 ○ 排気ファン交換 ○ 炎返しを取り外し清掃する。 ○ バーナーポットを外し、底部を清掃する。
バーナーポット内に燃料が溜まる	<ul style="list-style-type: none"> ● 空気量が少ない ● 燃料の供給量が多すぎる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 炎調整ダンパーを調整し、適切な空気量にする。 ○ 燃焼パワーを下げる、または炎調整ダンパー開度を大きくし空気量を多くする。
炎の長さが短く、火の粉が飛んで激しく燃える	<ul style="list-style-type: none"> ● 空気の量が多すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 炎調整ダンパーを閉めて空気量を減らす。
炎が大きく、暗く赤い	<ul style="list-style-type: none"> ● 空気量が少ない。 ● 燃料供給量が多すぎる。 ● ペレット燃料の品質が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 炎調整ダンパーを調整する。 ○ 燃料供給量を減らす。 ○ 推奨品の燃料を使用する。

現象	考えられる原因	処置
十分に温風が出ない	<ul style="list-style-type: none"> ● ペレット燃料の質が悪い ● 熱交換パイプに煤や、灰が付着している。 ● 温風吹出し口が詰まっている ● 温風ファンの能力低下 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 推奨品の燃料を使用する。 ○ ストーブ前面のスス落としノブを引いて、熱交換パイプの表面を清掃する。 ○ 熱交換パイプ内の清掃 ○ 掃除機でモータの冷却穴に詰っている綿埃などを除去
燃料に着火しない、くすぶり続ける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 炎調整ダンパーの開度が大きく、バーナーポット内風速が早すぎる。 ● 炎返しの背面に灰やクリンカが堆積している ● バーナーポット底部に灰やクリンカが溜まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 炎調整ダンパーを少し閉じて運転、着火後に炎調整ダンパー開度を調節する。 ○ 炎返しを取り外し清掃する。 ○ バーナーポットを外し、底部を清掃する。
消火操作後、排気ファンが停止しない。	<ul style="list-style-type: none"> ● ストーブの温度が下がりきっていない。 ● 排気ガス温度センサー故障 ● 運転制御基板故障 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運転停止後、排気ファン停止まで15～20分必要 ○ 排気ガス温度センサー交換 ○ 基板交換
ストーブがスタート後15分くらいで停止する。(着火はする)	<ul style="list-style-type: none"> ● 排気ガス温度センサーへの配線緩み。 ● 排気ガス温度センサー故障 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 配線チェックし、修理する。 ○ 排気ガス温度センサー交換
ストーブがスタート後15分で着火しないで停止する。(燃料は供給する)	<ul style="list-style-type: none"> ● 着火用ヒーター表面に燃焼灰が付着 ● 排気ガス温度センサー故障 ● 着火用ヒーター断線 ● 着火用ヒーターへの配線緩み 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バーナーポット、ヒーター表面清掃、灰を除去する。 ○ 排気ガス温度センサー交換 ○ 着火用ヒーター交換 ○ 配線チェックし、修理する。
ストーブがスタート後15分で着火しないで停止する。(燃料も供給しない)	<ul style="list-style-type: none"> ● ペレット投入ホッパー内のスクリュ部が空っぽになっている ● ペレット投入ホッパー内にペレット燃料がない。 ● 風圧センサーが作動 ● 燃料供給モータ故障 ● 燃料供給モータへの配線緩み 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再度スタート/ストップスイッチを押して再スタートさせる。 ○ ホッパー内にペレット燃料を入れる。 ○ 26ページ参照 ○ モータ交換 ○ 配線チェックし修理する。
ヒューズが切れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 着火用ヒーターの短絡 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着火用ヒーター交換 ○ ヒューズ(7A)交換
ブレーカが落ちる	<ul style="list-style-type: none"> ● 着火用ヒーターからの漏電 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着火用ヒーター交換



注意

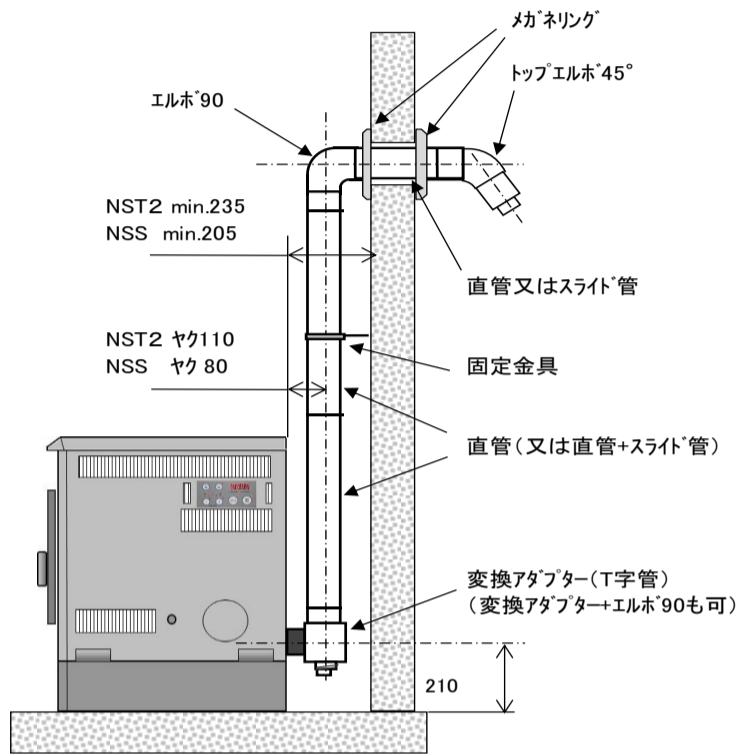
故障状態によっては、特別な知識を必要とする場合があります。できるだけ販売店へご連絡のうえ処置してください。

排気筒設置例

- * 排気筒は、弊社指定の2重管(φ110mm、排気部φ75mm)を使用してください。
- * 壁の貫通穴の寸法は、φ130mm~φ140mmとしてください。

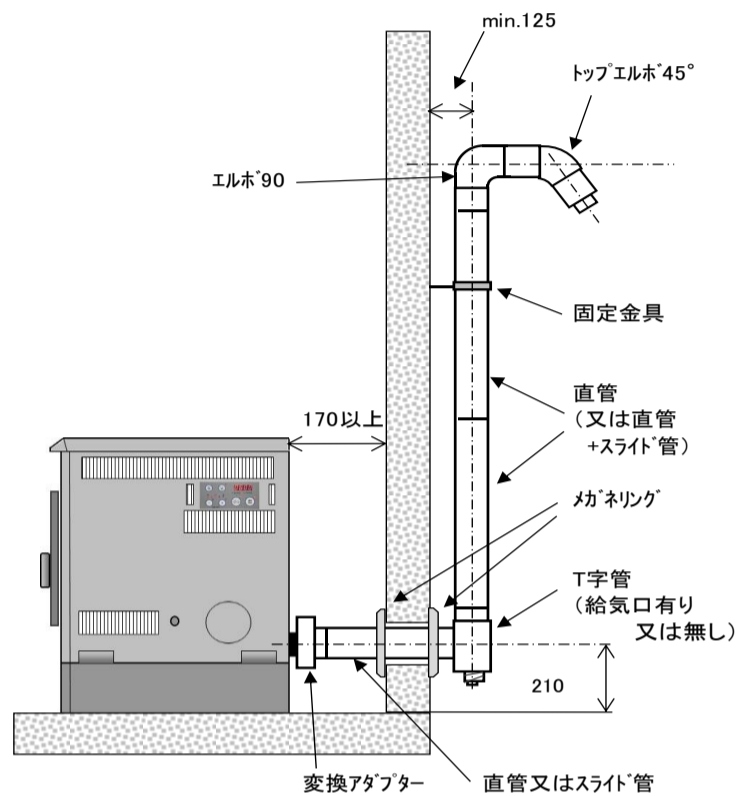
排気筒トップは障害物で困ったり、積雪で埋もれるおそれがある場所には設置しないでください。また、排気ガスが直接通行人に当たるところには設置しないでください。

①室内立上げ方式



【必要部品】
 変換アダプター(T字管) + 直管 + エルボ°90 + スライド管 + トップエルボ°45 + メカネリング
 * 立上げ高さやレイアウトに応じて、直管の長さやスライド管の長さを選定してください。

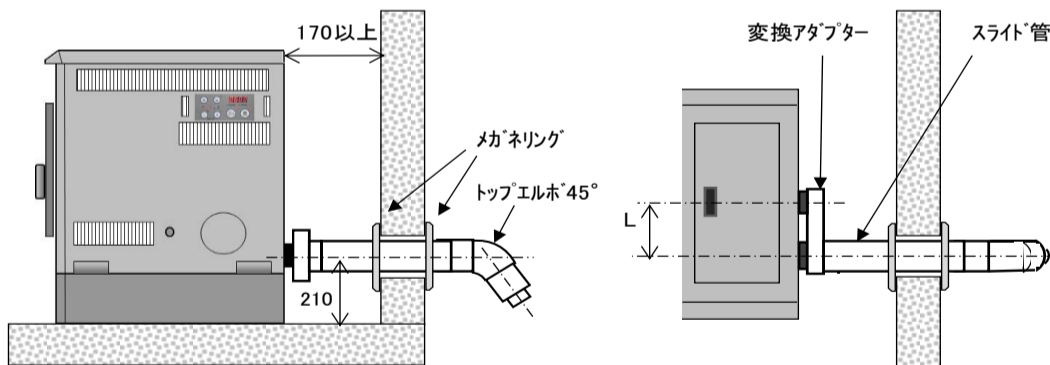
②屋外立上げ方式



【必要部品】
 変換アダプター + スライド管 + T字管 + 直管 + エルボ°90 + トップエルボ°45 + メカネリング
 * 立上げ高さやレイアウトに応じて、直管の長さやスライド管の長さを選定してください。

③ストーブの背面から直接壁を貫通する場合

注) 火花対策や、停電時の対応に注意する必要があります。



【必要部品】
 変換アダプター + スライド管 + トップエルボ°45 + メカネリング
 * コーナー設置の場合は、エルボ°45を使用

L: NST2 = 137mm
 NSS = 95mm

* コーナー設置の場合は、エルボ°45を使用

直管

直管300	300
直管600	600
直管900	900

スライド管

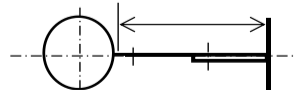
スライド管210	185~230
スライド管270	230~315
スライド管500	400~600

φ110固定金具

TT-S110	70~95
TT-M110	120~195
TT-L110	225~390

その他の排気筒関連部品

- 化粧板(壁面貫通部用)
- 二つ割(メカネリング固定用)
- シングル排気筒(φ75mm)部品
 直管、エルボ°90、エルボ°45、トップエルボ°、直管トップ、他



保証とアフターサービス

修理、お取り扱い、お手入れなどのご相談は先ず、お買い上げの販売代理店へお申しつけください。

◇保証書と保証期間

設置完了後に発行される「保証書」を必ず保管してください。
本取扱説明書に従って正常に使用し、適正な保守・点検を実施し故障した場合には、「保証書」にしたがい無償修理いたします。
保証期間は、設置完了日より3年間(3シーズン)とします。
保証内容詳細については、別紙「保証書」をご確認ください。

◇仕様

名 称	NST2型 木質バイオマスペレットストーブ
給排気方式	密閉式強制給排気形
燃 料	木部(ホワイト)ペレット、または全木(混合)ペレット
点火方式	電気点火方式
燃 焼 量	2.24kg/h ~ 0.74kg/h
最大発熱量 注1	10,752kcal/h
最小発熱量 注1	3,552Kcal/h
大きさ(W x D x H)	620 mm x 600 mm x 795 mm
燃料タンク容量	約 20 kg
重 量	約 75 kg
電 源	1φ AC100V 50/60Hz 60W (着火時 340W)
電流ヒューズ	7A 1個
安全装置	対震自動消化装置、停電安全装置、過熱防止装置 点火安全装置、燃焼制御装置、逆圧防止装置
付 属 品	取扱説明書、ユーザー登録はがき、プライバシー保護シール、 灰かき棒

注1 燃料ペレットの持つ熱量により異なります。

ユーザー登録のお願い

製品に関しまして重要なお知らせ事項が発生した場合のご連絡先として使用させていただくために、ユーザー登録をお願いいたします。同封しておりますハガキに必要事項をご記入の上、プライバシー保護シールを貼り付けてご投函ください。

製造元：日鋼設計株式会社

〒736-0082

広島市安芸区船越南1丁目6番1号

Tel (082)-822-7653 Fax (082)-823-6491

URL: <http://www.nikkosekkei.co.jp/>